

家畜衛生だより

From 中央家保 獣医師用

中央家畜保健衛生所・中央動物防疫協議会
〒262-0011 千葉市花見川区三角町656
Tel: 043-250-4141 (夜間・休日対応)
Fax: 043-286-0090
(公社)千葉県畜産協会

BSE検査対象となる死亡牛について

本年8月、県内でBSE検査対象死亡牛が検査を受けないまま化製処理される事例が発生しました。

検査対象になる死亡牛を検案した場合は、畜主にBSE検査対象牛であることを必ずその場で伝え、作成した死亡牛届出書を畜主に渡してください。

	0カ月齢	48カ月齢	96カ月齢
通常の死亡牛			検査対象
起立不能牛 * 別紙			
BSE特定症状牛			

日本は現在BSEについて「無視できるリスクの国」のステータスを保持しています。

これを維持していくためには死亡牛のBSE検査が欠かせず、診療獣医師の皆さまの御協力が不可欠です。

今後検査漏れのないよう、今一度BSE検査対象死亡牛の確認と死亡牛届出書の扱いについて御確認ください。



お問い合わせ・ご連絡は、千葉県中央家畜保健衛生所まで
TEL. 043-250-4141 (夜間・休日転送) FAX. 043-286-0090

特定症状牛及び起立不能牛の分類

【特定症状牛】

- ① 生前に特定臨床症状を呈していた又はその可能性が高い牛（治療をせず又は治療中にととう汰され又は死亡した牛を含む。）。
具体的には、ヒストフィルス・ソムニ感染症、リステリア症、大脳皮質壊死症、脳炎、脳脊髄炎、神経症（全身又は後軀に異常が見られる神経麻痺及び神経系の腫瘍で、髄膜炎、旋回病、閉鎖神経麻痺、大腿神経麻痺、坐骨神経麻痺、脳腫瘍、脊髄腫瘍、末梢神経系腫瘍又は下垂体腫瘍）であると疑われた又は確定診断された牛であって、かつ、治療に反応せず進行性の中樞神経症状を呈していた又はその可能性が高い牛。
- ② 死亡原因が確定できない場合であって、かつ、飼養者の稟告等から、家畜防疫員により生前に特定臨床症状を呈していた可能性が高いと判断された牛。
- ③ 農場から異常牛を疑う通報があり、当該牛について、家畜防疫員により特定臨床症状を呈すると判定される前に、死亡し又は家畜防疫員の確認を受けた上でととう汰された牛。

【起立不能牛】

- ① 獣医師が臨床症状、生化学検査等から、生前に歩行困難、起立不能又は神経症状を主徴とする疾病（低カルシウム血症、マグネシウム欠乏症、乳熱、ダウンナー症候群、頸髄症、変形性脊椎症、脳軟化症、癲癇、顔面神経麻痺、三叉神経麻痺、肩甲上神経麻痺、橈骨神経麻痺、腓骨神経麻痺、脛骨神経麻痺、その他の末梢神経麻痺）であると診断し、死亡し又はととう汰された牛。
- ② 死体の検案により、【特定症状牛】の①の疾病（ヒストフィルス・ソムニ感染症、リステリア症、大脳皮質壊死症、脳炎、脳脊髄炎、神経症）にかかっていたことが判明した場合であって、飼養者、検案した獣医師等に当該牛の生前の症状を再度確認した結果、当該牛が特定臨床症状を呈していた可能性が低い牛。